

2012年3月期の実績と今後の取り組みについて



2012年5月2日
西日本旅客鉄道株式会社

. 2012年3月期の実績と
2013年3月期の見通しについて

(単位:億円)

	2011年3月期 通期実績 A	2012年3月期 通期実績 B	対前年比		2013年3月期 通期予想 C	対前年比	
			増減 B-A	比率(%) B/A		増減 C-B	比率(%) C/B
【連結】							
営業収益	12,135	12,876	+741	106.1	12,880	+3	100.0
営業利益	959	1,097	+138	114.4	1,115	+17	101.5
経常利益	689	824	+134	119.6	865	+40	104.9
当期純利益	349	294	54	84.3	510	+215	172.9
【単体】							
営業収益	8,286	8,621	+335	104.0	8,625	+3	100.0
運輸収入	7,280	7,587	+307	104.2	7,600	+12	100.2
営業費用	7,528	7,728	+200	102.7	7,720	8	99.9
人件費	2,353	2,379	+26	101.1	2,335	44	98.1
物件費	3,334	3,395	+61	101.8	3,475	+79	102.3
動力費	337	362	+25	107.5	395	+32	109.0
修繕費	1,358	1,333	24	98.2	1,350	+16	101.2
業務費	1,638	1,699	+60	103.7	1,730	+30	101.8
減価償却費	1,291	1,407	+116	109.0	1,350	57	95.9
営業利益	758	892	+134	117.8	905	+12	101.4
経常利益	485	628	+143	129.6	660	+31	105.0
当期純利益	285	221	63	77.7	410	+188	185.0

単体損益計算書

(単位:億円)

	2011年3月期 通期実績 A	2012年3月期		対前年比		対予想比 増減 C-B
		通期予想(1/27公表) B	通期実績 C	増減 C-A	比率(%) C/A	
営業収益	8,286	8,640	8,621	+335	104.0	18
運輸収入	7,280	7,620	7,587	+307	104.2	32
その他収入	1,006	1,020	1,034	+27	102.8	+14
営業費用	7,528	7,730	7,728	+200	102.7	1
人件費	2,353	2,375	2,379	+26	101.1	+4
物件費	3,334	3,390	3,395	+61	101.8	+5
動力費	337	370	362	+25	107.5	7
修繕費	1,358	1,345	1,333	24	98.2	11
業務費	1,638	1,675	1,699	+60	103.7	+24
線路使用料等	251	236	236	15	94.0	+0
租税公課	298	315	309	+11	103.8	5
減価償却費	1,291	1,414	1,407	+116	109.0	6
営業利益	758	910	892	+134	117.8	17
営業外損益	272	265	264	+8	96.7	+0
営業外収益	70	68	71	+1	-	+3
営業外費用	343	333	335	7	-	+2
経常利益	485	645	628	+143	129.6	16
特別損益	4	15	17	12	-	2
特別利益	489	-	231	257	-	-
特別損失	494	-	248	245	-	-
当期純利益	285	235	221	63	77.7	13

運輸収入の主な増減要因

(単位:億円)

		2012年3月期通期実績			
		運輸収入	対前年	主な増減要因	
新幹線	3,515	+275 (108.5%)	基礎トレンド(100.2%)		+7
			特殊要因	九州新幹線との直通運転	+150
				東日本大震災反動増	+28
				多客期・曜日配列	+20
				OSC開業	+17
				東日本大震災	10
	等				
在来線	近畿圏	+29 (101.0%)	基礎トレンド(99.6%)		11
			特殊要因	OSC開業	+30
				多客期・曜日配列	+8
				東日本大震災反動増	+7
				東日本大震災	6
				台風12・15号	4
		等			
	その他	+2 (100.2%)	基礎トレンド(99.6%)		4
			特殊要因	東日本大震災反動増	+6
				多客期・曜日配列	+5
OSC開業				+2	
東日本大震災				5	
	台風12・15号	4			
	等				
在来線計		4,072	+31 (100.8%)		
運輸収入計		7,587	+307 (104.2%)		

荷物収入は金額些少のため省略

運輸収入と旅客輸送量の実績

運輸収入

(単位:億円)

	通期実績 4/1~3/31			4Q実績 1/1~3/31		
	2011年3月期	2012年3月期	対前年	2011年3月期	2012年3月期	対前年
全社計	7,280	7,587	+307 104.2%	1,761	1,848	+86 104.9%
新幹線	3,239	3,515	+275 108.5%	781	840	+58 107.5%
定期	89	89	▲0 100.0%	21	21	+0 100.8%
定期外	3,149	3,425	+275 108.8%	760	818	+58 107.7%
在来線	4,040	4,072	+31 100.8%	979	1,007	+27 102.8%
定期	1,403	1,404	+0 100.1%	336	336	+0 100.2%
定期外	2,636	2,667	+30 101.2%	643	670	+26 104.2%
近畿圏	2,844	2,873	+29 101.0%	688	708	+19 102.8%
定期	1,133	1,134	+1 100.1%	272	273	+0 100.3%
定期外	1,710	1,738	+27 101.6%	416	434	+18 104.5%
その他	1,196	1,198	+2 100.2%	291	299	+8 102.8%
定期	270	270	▲0 99.8%	63	63	+0 100.1%
定期外	925	928	+2 100.3%	227	235	+8 103.5%

輸送人キロ

(単位:百万人キロ)

	通期実績 4/1~3/31			4Q実績 1/1~3/31		
	2011年3月期	2012年3月期	対前年	2011年3月期	2012年3月期	対前年
全社計	52,614	54,117	+1,503 102.9%	12,525	12,943	+418 103.3%
新幹線	15,546	16,878	+1,331 108.6%	3,705	3,978	+273 107.4%
定期	718	722	+4 100.6%	172	176	+3 102.1%
定期外	14,828	16,155	+1,326 108.9%	3,532	3,802	+269 107.6%
在来線	37,067	37,239	+171 100.5%	8,820	8,965	+144 101.6%
定期	22,692	22,788	+96 100.4%	5,273	5,340	+66 101.3%
定期外	14,374	14,450	+75 100.5%	3,546	3,624	+77 102.2%
近畿圏	28,047	28,218	+171 100.6%	6,675	6,792	+117 101.8%
定期	18,352	18,440	+87 100.5%	4,301	4,356	+55 101.3%
定期外	9,694	9,778	+83 100.9%	2,373	2,436	+62 102.6%
その他	9,020	9,020	+0 100.0%	2,145	2,172	+27 101.3%
定期	4,340	4,348	+8 100.2%	971	983	+11 101.2%
定期外	4,680	4,672	▲7 99.8%	1,173	1,188	+15 101.3%

単体営業費用の主な増減要因

(単位:億円)

科目	2012年3月期通期実績		
		対前年	主な増減要因
人件費	2,379	+26 (101.1%)	・数理差異償却増 + 8 等
動力費	362	+25 (107.5%)	・燃料価格上昇 等
修繕費	1,333	24 (98.2%)	・部外関連工事減 26 等
業務費	1,699	+60 (103.7%)	・会社間清算増 + 32 ・発売手数料増 + 16 ・システム関連経費増 + 9 等
線路使用料等	236	15 (94.0%)	・JR東西線使用料減
租税公課	309	+11 (103.8%)	・固定資産税増 等
減価償却費	1,407	+116 (109.0%)	・設備増
営業費用計	7,728	+200 (102.7%)	

連結損益計算書

(単位:億円)

	2011年3月期 通期実績 A	2012年3月期		対前年比		対予想比 増減 C-B
		通期予想(1/27公表) B	通期実績 C	増減 C-A	比率(%) C/A	
営業収益	12,135	12,890	12,876	+741	106.1	13
営業費用	11,175	11,815	11,778	+603	105.4	36
営業利益	959	1,075	1,097	+138	114.4	+22
営業外損益	270	280	273	3	-	+6
営業外収益	94	79	79	15	84.0	+0
営業外費用	365	359	352	12	96.7	6
経常利益	689	795	824	+134	119.6	+29
特別損益	79	25	22	+57	-	+2
特別利益	511	-	276	235	54.0	-
特別損失	590	-	298	292	50.5	-
当期純利益	349	285	294	54	84.3	+9
包括利益	338	-	276	61	81.8	-

セグメント情報

(単位:億円)

	2011年3月期 通期実績 A	2012年3月期		対前年比		対予想比 増減 C-B
		通期予想(1/27公表) B	通期実績 C	増減 C-A	比率(%) C/A	
営業収益 ^{*1}	12,135	12,890	12,876	+741	106.1	13
運輸業	8,064	8,419	8,390	+326	104.0	28
流通業	2,013	2,339	2,335	+322	116.0	3
物販・飲食	1,322	1,338	1,334	+12	100.9	3
百貨店	634	947	949	+315	149.7	+2
不動産業	757	939	935	+178	123.5	3
ショッピングセンター	477	545	543	+66	113.9	1
不動産賃貸・販売 ^{*3}	264	377	376	+112	142.6	0
【分譲事業】	[48]	[105]	[107]			
その他	1,299	1,193	1,214	84	93.5	+21
ホテル	324	320	321	2	99.1	+1
旅行	394	368	372	22	94.4	+4
営業利益 ^{*2}	959	1,075	1,097	+138	114.4	+22
運輸業	611	782	767	+155	125.5	14
流通業	35	34	29	65	-	+4
物販・飲食	28	-	31	+2	108.6	-
百貨店	4	-	63	68	-	-
不動産業	222	251	259	+37	116.8	+8
ショッピングセンター	71	-	82	+10	114.5	-
不動産賃貸・販売	24	-	63	+39	258.0	-
その他	96	82	103	+7	107.3	+21
ホテル	15	-	16	+1	107.5	-
旅行	3	-	3	+0	125.6	-

^{*1} 営業収益は、外部顧客に対する売上高(外部売上高)を示しており、各セグメントの内訳は、主な子会社の外部売上高の合計値です。
内訳の合計値は、セグメント計と一致しません。

^{*2} 営業利益の各セグメントの内訳は、主な子会社の営業利益の単純合算値です。内訳の合計値は、セグメント計と一致しません。

^{*3} []は分譲売上(再掲)です。

単体業績予想

(単位:億円)

	2012年3月期 通期実績 A	2013年3月期 通期予想 B	対前年比	
			増減 B-A	比率(%) B/A
営業収益	8,621	8,625	+3	100.0
運輸収入	7,587	7,600	+12	100.2
その他収入	1,034	1,025	9	99.1
営業費用	7,728	7,720	8	99.9
人件費	2,379	2,335	44	98.1
物件費	3,395	3,475	+79	102.3
動力費	362	395	+32	109.0
修繕費	1,333	1,350	+16	101.2
業務費	1,699	1,730	+30	101.8
線路使用料等	236	236	0	99.9
租税公課	309	324	+14	104.6
減価償却費	1,407	1,350	57	95.9
営業利益	892	905	+12	101.4
営業外損益	264	245	+19	-
営業外収益	71	65	6	-
営業外費用	335	310	25	-
経常利益	628	660	+31	105.0
特別損益	17	-	-	-
特別利益	231	-	-	-
特別損失	248	-	-	-
当期純利益	221	410	+188	185.0

運輸収入の見通し

(単位:億円)

		2012年3月期 通期実績 A	2013年3月期 通期予想 B	対前年比	
				増減 B-A	比率(%) B/A
新幹線		3,515	3,535	+20	100.6
在来線	近畿圏	2,873	2,867	5	99.8
	その他	1,198	1,196	2	99.8
	在来線計	4,072	4,064	8	99.8
運輸収入計		7,587	7,600	+12	100.2

単体営業費用の見通し

(単位:億円)

科目	2013年3月期通期見通し		
		対前年	主な増減要因
人件費	2,335	44 (98.1%)	・数理差異償却減 等
動力費	395	+32 (109.0%)	・燃料価格上昇 等
修繕費	1,350	+16 (101.2%)	・撤去工事費増 等
業務費	1,730	+30 (101.8%)	・システム関連経費増 等
線路使用料等	236	0 (99.9%)	
租税公課	324	+14 (104.6%)	・固定資産税増 等
減価償却費	1,350	57 (95.9%)	・2007年度税制改正に伴う残存簿価均等償却終了 等
営業費用計	7,720	8 (99.9%)	

連結業績予想

(単位:億円)

	2012年3月期 通期実績 A	2013年3月期 通期予想 B	対前年比	
			増減 B-A	比率(%) B/A
営業収益	12,876	12,880	+3	100.0
営業費用	11,778	11,765	13	99.9
営業利益	1,097	1,115	+17	101.5
営業外損益	273	250	+23	-
営業外収益	79	70	9	-
営業外費用	352	320	32	-
経常利益	824	865	+40	104.9
特別損益	22	20	+2	-
特別利益	276	-	-	-
特別損失	298	-	-	-
当期純利益	294	510	+215	172.9
1株当たり当期純利益(円)	152.29	263.37	-	-

連結業績予想(セグメント別)

(単位:億円)

	2012年3月期 通期実績 A	2013年3月期 通期予想 B	対前年比	
			増減 B-A	比率(%) B/A
営業収益 ^{*1}	12,876	12,880	+3	100.0
運輸業	8,390	8,394	+3	100.0
流通業	2,335	2,358	+22	101.0
物販・飲食	1,334	1,337	+2	100.2
百貨店	949	976	+26	102.8
不動産業	935	895	40	95.6
ショッピングセンター	543	543	0	99.9
不動産賃貸・販売 ^{*3} 【分譲事業】	376 【107】	337 【65】	39	89.5
その他	1,214	1,233	+18	101.5
ホテル	321	329	+7	102.4
旅行	372	388	+15	104.2
営業利益 ^{*2}	1,097	1,115	+17	101.5
運輸業	767	780	+12	101.6
流通業	29	24	+5	-
不動産業	259	260	+0	100.0
その他	103	102	1	98.3

^{*1} 営業収益は、外部顧客に対する売上高(外部売上高)を示しており、各セグメントの内訳は、主な子会社の外部売上高の合計値です。内訳の合計値は、セグメント計と一致しません。

^{*2} 営業利益の各セグメントの内訳は、主な子会社の営業利益の単純合算値です。内訳の合計値は、セグメント計と一致しません。

^{*3} 【 】は分譲売上(再掲)です。

連結財政状況およびキャッシュフロー計算書

(単位:億円)

	2011年3月期 期末 A	2012年3月期 期末 B	増減 B-A
資産	26,724	26,429	294
負債	19,511	19,094	417
純資産	7,212	7,335	+122
長期債務残高 【長期債務平均金利(%)】	11,026 [2.97]	10,688 [2.86]	337 -
新幹線債務 【新幹線債務平均金利(%)】	3,229 [5.46]	2,845 [5.56]	384 -
社債 【社債平均金利(%)】	4,449 [2.09]	4,549 [2.07]	+100 -
自己資本比率	25.8	26.6	-
1株当たり純資産(円) ^{*1}	3,557.13	3,632.41	-

*1 当社は、2011年7月1日付で普通株式1株につき100株の割合で株式分割を行いました。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり純資産額を算定しております。

	2011年3月期 通期実績 A	2012年3月期 通期実績 B	対前年増減 B-A
営業活動によるキャッシュフロー	2,232	2,062	169
投資活動によるキャッシュフロー	2,462	1,991	+471
フリーキャッシュフロー	230	70	+301
財務活動によるキャッシュフロー	514	368	882
現金及び現金同等物の増減	284	291	575
現金及び現金同等物の期末残高	795	503	291

(単位:人、億円)

	2011年3月期 通期実績	2012年3月期 通期実績	2013年3月期 通期予想
連結ROA (%)	3.7	4.1	4.2
連結ROE (%)	5.2	4.2	7.1
連結EBITDA ^{*1}	2,468	2,791	2,745
連結減価償却費	1,508	1,693	1,630
連結設備投資(自己資金)	2,600	1,954	1,570
単体設備投資(自己資金)	2,085	1,508	1,270
安全関連投資	1,251	977	690
1株当たり配当金(円) ^{*2}	8,000	90	100

*1 EBITDA = 営業利益 + 減価償却費

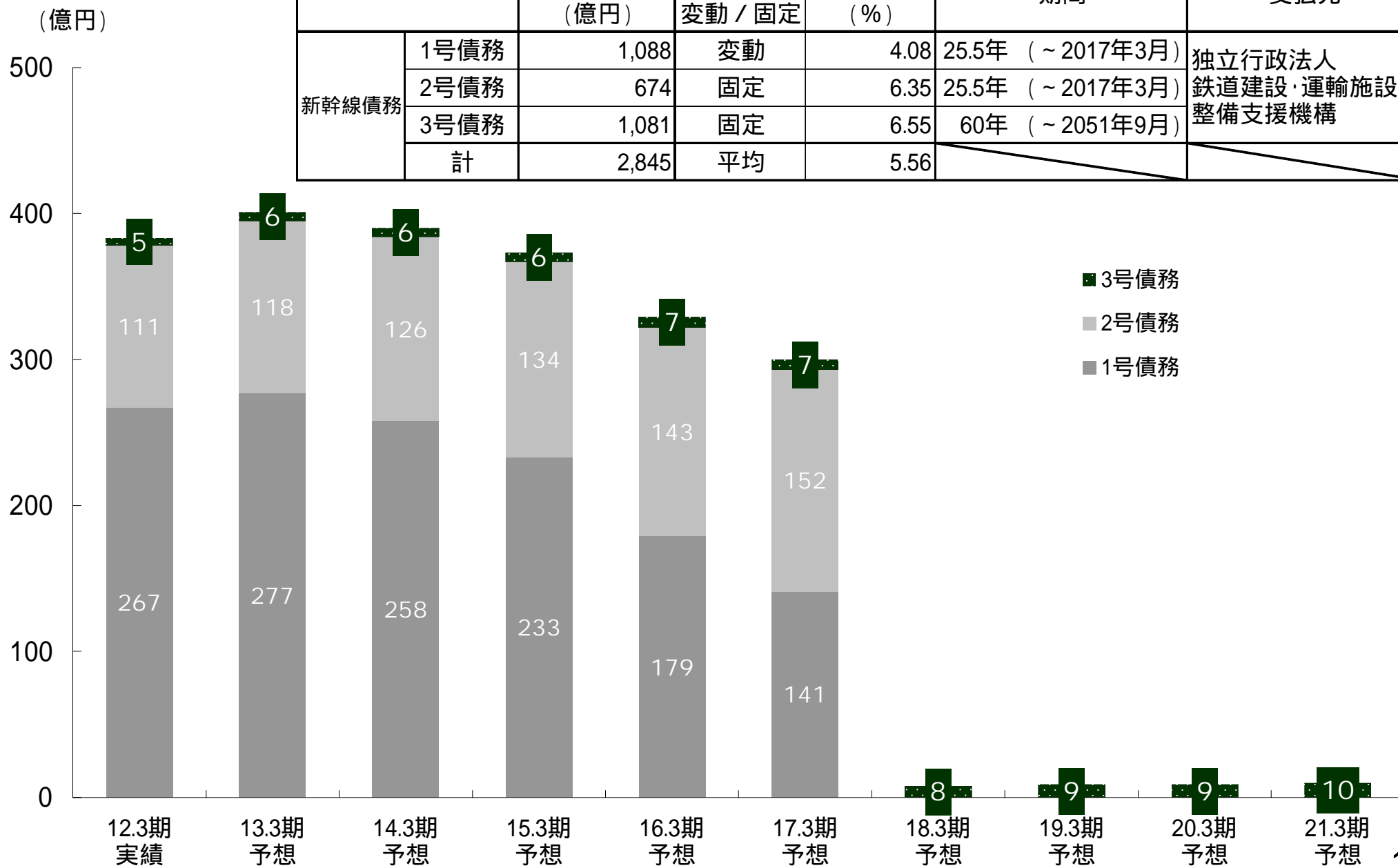
*2 当社は、2011年7月1日付で普通株式1株につき100株の割合で株式分割を行いました。

	2011年3月期 通期実績		2012年3月期 通期実績		2013年3月期 通期予想	
	連結	単体	連結	単体	連結	単体
期末従業員数(就業人員)	45,703	26,705	45,402	26,778	-	-
金融収支	333	321	324	312	302	290
受取利息・配当金	4	13	4	14	4	13
支払利息	337	334	329	326	307	304

新幹線債務償還計画

【2012年3月末】

		残高 (億円)	期末金利		期間	支払先
			変動 / 固定	(%)		
新幹線債務	1号債務	1,088	変動	4.08	25.5年 (~ 2017年3月)	独立行政法人 鉄道建設・運輸施設 整備支援機構
	2号債務	674	固定	6.35	25.5年 (~ 2017年3月)	
	3号債務	1,081	固定	6.55	60年 (~ 2051年9月)	
	計	2,845	平均	5.56		



. 今後の取り組みについて

2012年3月期の実績と2013年3月期の見通し

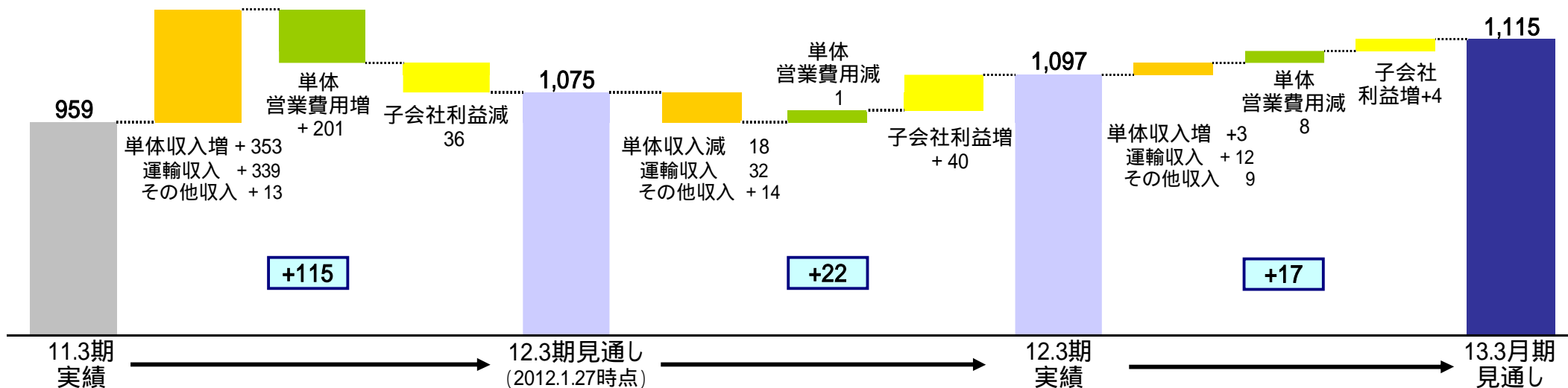
連結業績の実績と見通し

(単位:億円)

	2012年3月期実績		2013年3月期見通し	
		対前年		対前年
営業収益	12,876	+741(106.1%)	12,880	+3(100.0%)
営業費用	11,778	+603(105.4%)	11,765	13(99.9%)
営業利益	1,097	+138(114.4%)	1,115	+17(101.5%)
経常利益	824	+134(119.6%)	865	+40(104.9%)
当期純利益	294	54(84.3%)	510	+215(172.9%)

連結営業利益の推移

(単位:億円)



中期経営計画期間中の業績推移と見通し(総括表)



(単位:億円)

	2009年3月期 実績	2010年3月期 実績	2011年3月期 実績	2012年3月期 実績	2013年3月期 見通し (2012年4月時点)	2013年3月期 見通し (2010年10月時点)
営業収益	12,753	11,901	12,135	12,876	12,880	13,000
運輸業	8,561	7,974	8,064	8,390	8,394	8,245
流通業	2,153	2,019	2,013	2,335	2,358	2,585
不動産業	711	709	757	935	895	880
その他	1,326	1,196	1,299	1,214	1,233	1,290
営業利益	1,225	765	959	1,097	1,115	955
運輸業	891	452	611	767	780	590
流通業	47	31	35	29	24	25
不動産業	226	225	222	259	260	265
その他	67	67	96	103	102	90
経常利益	948	481	689	824	865	680
当期純利益	545	248	349	294	510	385
運輸収入	7,737	7,200	7,280	7,587	7,600	7,400
ROA	5.0%	3.1%	3.7%	4.1%	4.2%	3.6%
ROE	8.4%	3.7%	5.2%	4.2%	7.1%	5.4%
EBITDA	2,595	2,184	2,468	2,791	2,745	2,660

(注)・営業収益は外部顧客に対する売上高

・セグメント別営業利益はセグメント間消去前

・運輸収入は運輸業のうちJR西日本の鉄道事業の旅客運輸収入

今年度の取り組みの方向性について

当社を取り巻く環境

市場：人口減少・高齢化、世界経済の先行き不透明感、電力不足

競合：LCCの相次ぐ就航

自社：2大プロジェクト開業2年目、更なる安全性の追求、北陸新幹線開業に向けた準備

今年度の取り組み

中期経営計画と安全基本計画の最終年度であり、厳しい経営環境の下、
企業理念や経営ビジョンの実現に向けた取り組みを着実に進める

安全性やCSの向上、人材育成

安全性向上に向けた取り組み

- ・「安全基本計画」の完遂と次期安全計画策定
- ・安全・安定輸送の提供に向けた取り組み

CS向上に向けた取り組み

人材育成に向けた取り組み

中計戦略の推進

2大プロジェクト(九州新幹線直通運転・OSAKA STATION CITY)

- ・顧客ニーズや市場動向を踏まえた取り組み
- 地域との共生(線区価値向上、プラスサム実現)
- ・快適で利便性の高い「生活圏」の創造に向けた取り組み
- 技術による変革
- ・鉄道オペレーションのシステムチェンジの推進
- 現場起点の考動

CSR、コンプライアンス、コーポレート・ガバナンスの推進、新たな危機管理体制の構築

CSR、コンプライアンス、コーポレート・ガバナンス推進

新たな危機管理体制の構築

- ・エネルギークライシスへの対応、東日本大震災を踏まえた事業継続計画見直し、防災対策推進



成果を確認しながら今後の方向性を検討

2大プロジェクト:九州新幹線との直通運転

概要

(航空機との諸元比較)

2012年4月1日現在

	新幹線	航空機		
		JAL、ANA	Peach Aviation	
所要時間*1	大阪～鹿児島*2	「みずほ」 3時間42分 「さくら」 4時間06分 (新大阪駅～鹿児島中央駅)	約3時間10分 (大阪市中心部～ 鹿児島市中心部)	約3時間40分 (大阪市中心部～ 鹿児島市中心部)
	大阪～熊本	「みずほ」 2時間58分 「さくら」 3時間18分 (新大阪駅～熊本駅)	約3時間 (大阪市中心部～ 熊本市中心部)	-
運賃	大阪～鹿児島	正規 「みずほ」 21,600円 「さくら」 21,300円 割引 17,000円	正規 26,800円 割引 17,000～ 22,000円	4,280円～13,280円 (「ハッピーピーチプラス」*3 5,980円～17,780円)
	大阪～熊本	正規 「みずほ」 18,320円 「さくら」 18,020円 割引 14,400円	正規 23,500円 割引 14,400～ 19,300円	-
フリークエンシー	大阪～鹿児島*2	22.5往復/日	12往復/日 (ANA5、JAL7)	2往復/日
	大阪～熊本	23往復/日	8往復/日 (ANA5、JAL3)	-

*1 新幹線の時間は最速時間。

*2 2012年4月1日より関西空港～鹿児島間にPeach Aviationが就航。

*3 座席指定、手荷物受託、インターネットでの変更手数料無料サービス付き

(所要時間短縮効果)

利用区間と 所要時間	広島	岡山	新大阪
熊本	1時間36分 (53分)	2時間13分 (53分)	2時間58分 (59分)
鹿児島中央	2時間20分 (74分)	2時間56分 (75分)	3時間42分 (80分)

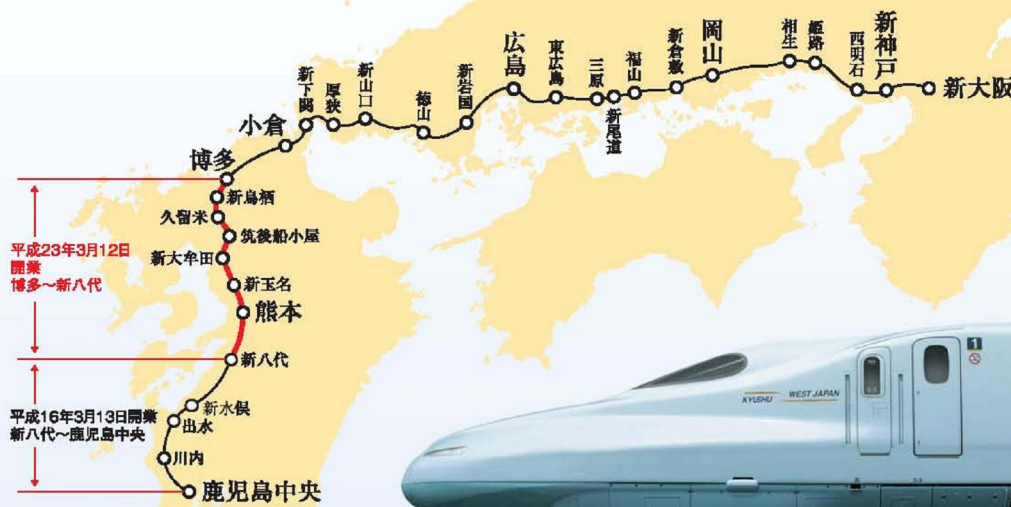
「みずほ」の最速列車、全線開業前との比較



<グリーン車>



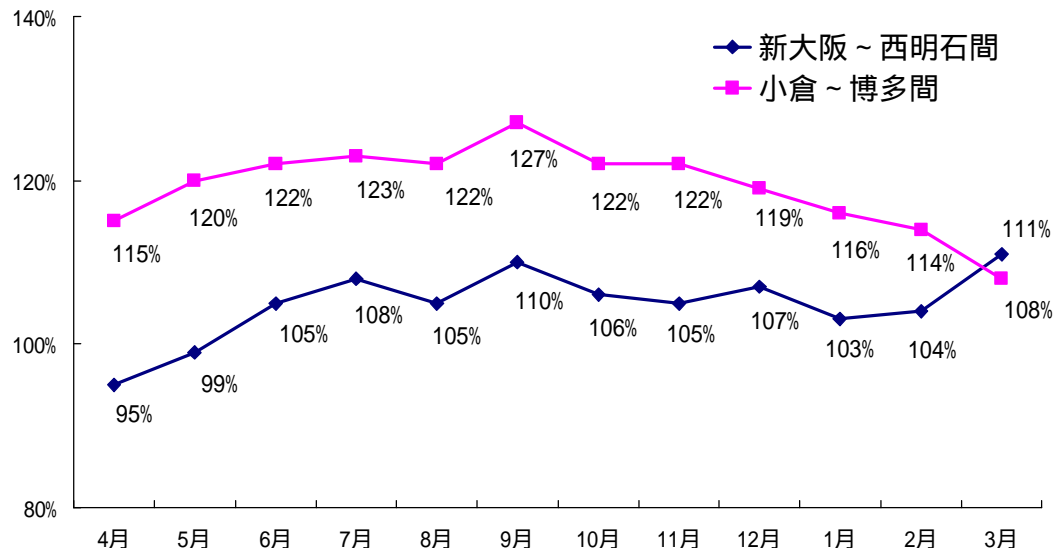
<普通車指定席>



2大プロジェクト:九州新幹線との直通運転

直通運転開始後の状況

【ご利用状況の月別推移 (前年同月比)】



【乗車率 (2011年4月～2012年3月の平均)】

みずほ	さくら	山陽新幹線全体
59%	66%	48%

【増収効果 (2011年3月期との比較)】

2012年3月期実績	2013年3月期見通し	
150億円	150億円	各種取り組みによって開業効果の継続を図る

今後の取り組み

相互送客を一過性のものとしないうための観光需要の維持とさらなる掘り起こし

- ・九州エリアの自治体や観光事業者、旅行会社との連携による、観光素材開発やキャンペーン実施
 - 「霧島アートな旅キャンペーン」(3～6月)
 - 「名探偵コナン 長崎ミステリーツアー」(4～11月)
- ・インバウンド需要取り込み(「JR Sanyo-Shikoku-Kyusyu RAIL PASS」発売等)
- ・関西、山陽等の魅力の発信による九州発の需要の喚起
 - 九州地区でのプロモーション強化(「平清盛」など)

利便性の向上とお客様への訴求

- ・九州直通列車増発による利便性向上について更なるアピール
- ・J-WESTカードの会員拡大、東海道・山陽・九州新幹線などのネット予約が可能な「e5489」の利用促進



<霧島アートの森美術館>

2大プロジェクト: OSAKA STATION CITY

概要

SOUTH GATE BUILDING

OSAKA STATION CITY

NORTH GATE BUILDING

<既存部分>

- ・ ホテルグランヴィア大阪
- ・ 大丸梅田店

<増床部分>

- ・ 大丸梅田店 (B2 ~ 15F)

- ・ 開発規模: 約24万5千㎡
- ・ 総事業費: 約2,100億円



・ オフィスタワー (14 ~ 27F)

・ LAGUNAVEIL Premier (レストラン、ウェディング: 28F)

・ ISETAN MITSUKOSHI (地下2F ~ 地上10F)

・ LUCUA (地下1F ~ 地上10F)

・ 映画ステーションシティシネマ (シネコン、11F)

・ 駅ナカ保育所 (11F)

・ JRキッズルーム GRANCISE (スポーツクラブ、12・13F)

・ LUCUA DINING eat PARADISE (10F)

開業後の状況と今後の取り組み

【増収効果(2011年3月期との比較)】

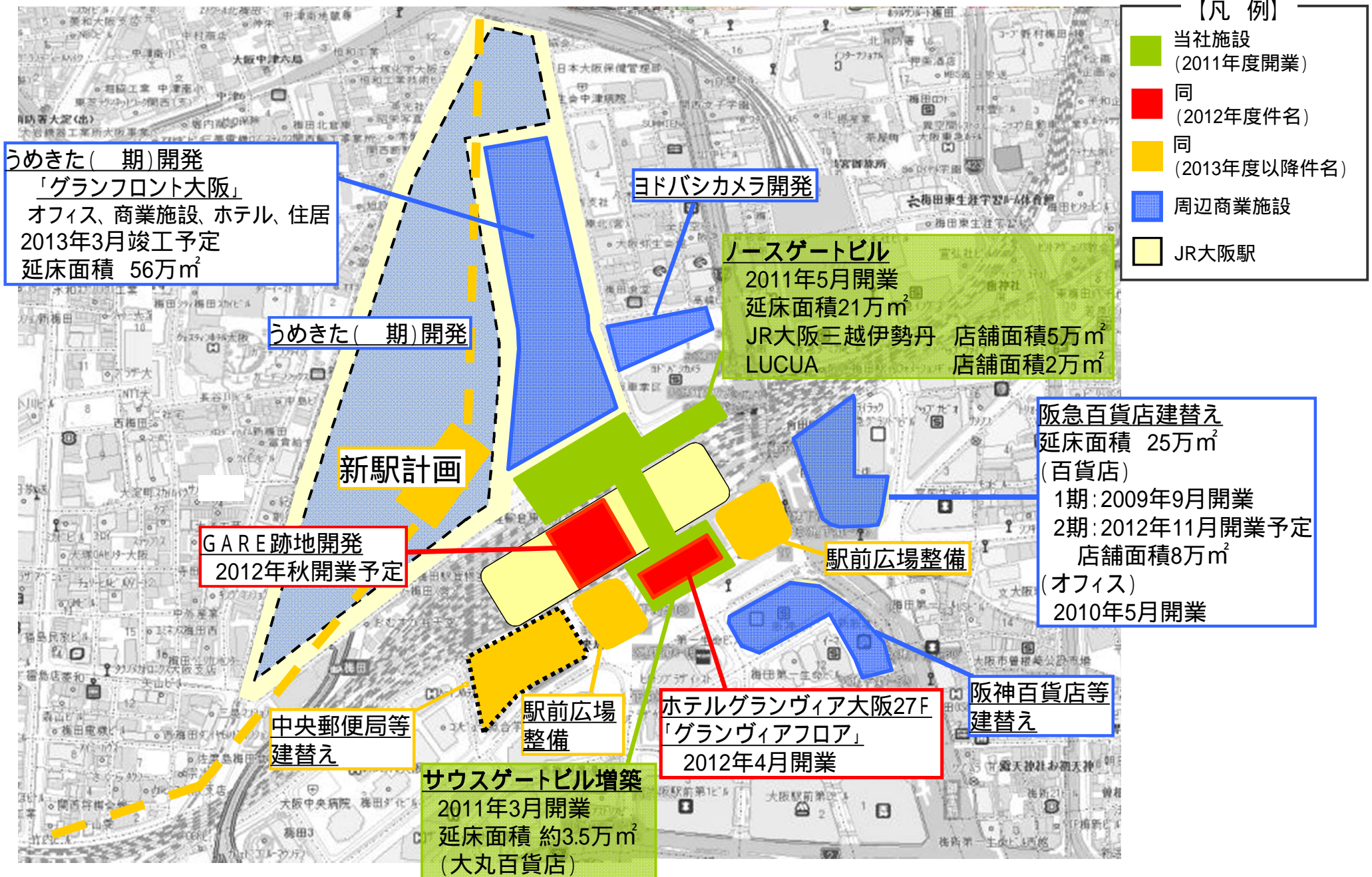
	2012年3月期 実績	2013年3月期 見通し
運輸業	50億円	50億円
流通業	310億円	340億円
不動産業	109億円	113億円
合計	469億円	503億円

OSAKA STATION CITYの更なる集客力向上

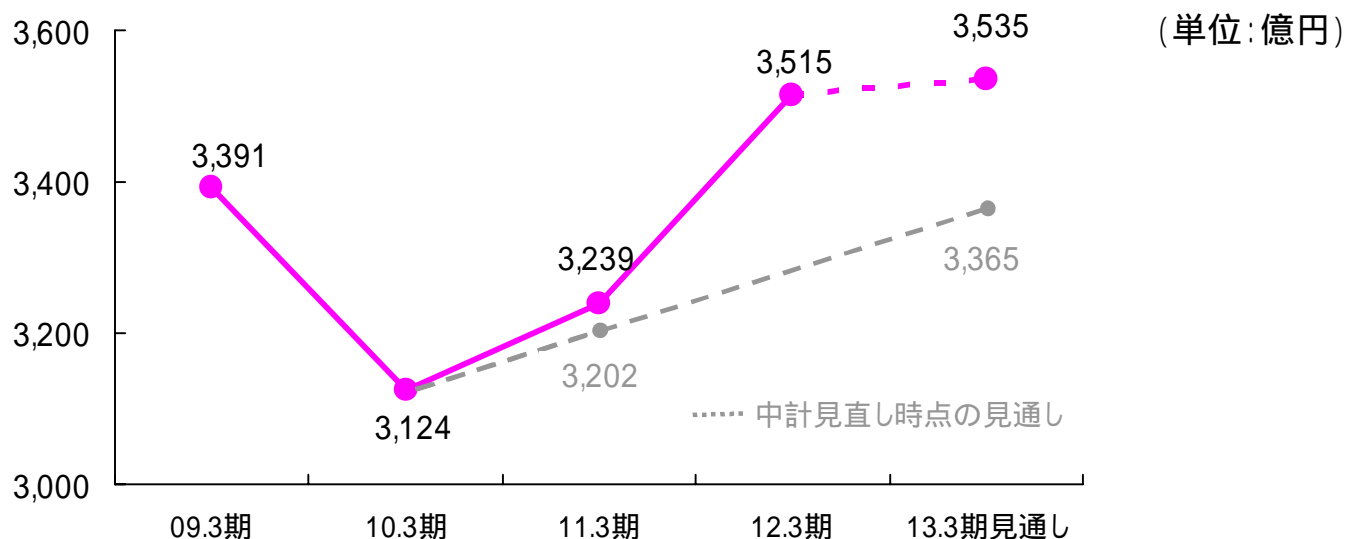
- ・ 集客イベント開催による賑わいの提供
(開業1周年記念イベント
「Meet the SMILE OSAKA STATION CITY 1st BIRTHDAY PARTY」等)
- ・ グループ一体となった商品開発・プロモーション推進
- ・ 「うめきた 期」開業に向けた梅田地区のエリアマネジメント深度化
(「梅田地区エリアマネジメント実践連絡会」)



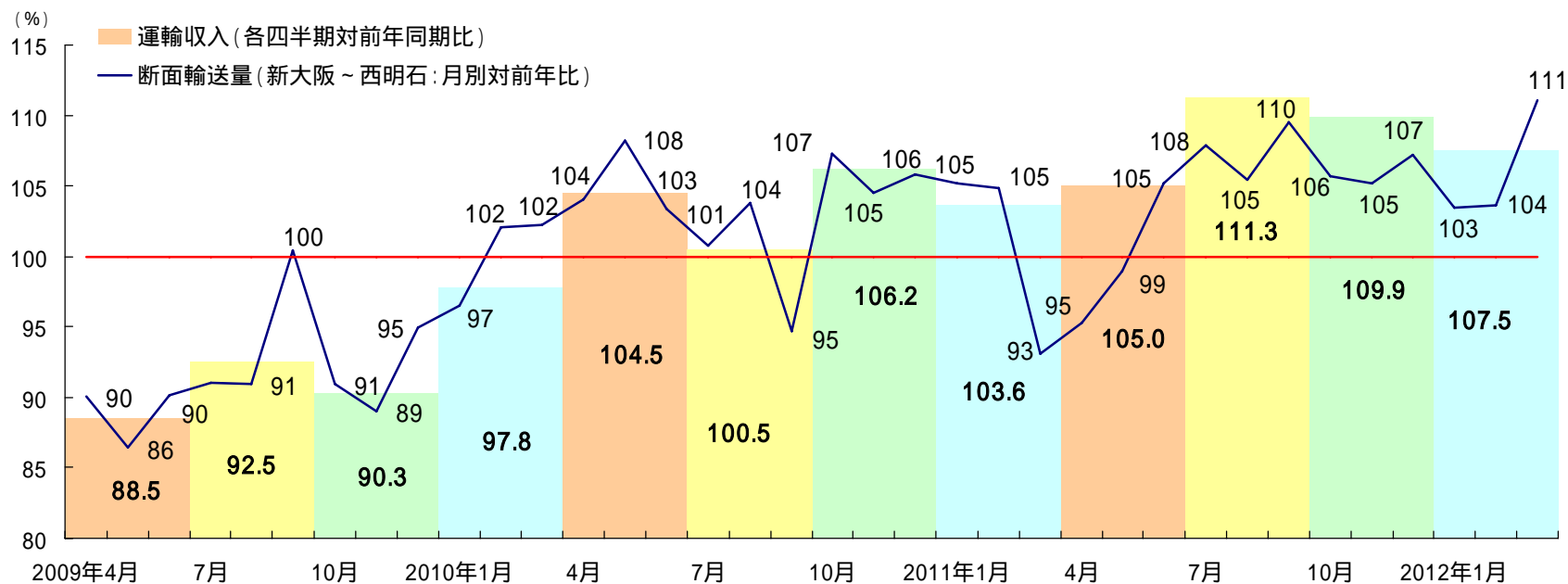
大阪駅周辺の開発の状況



山陽新幹線の運輸収入の状況



山陽新幹線のご利用状況

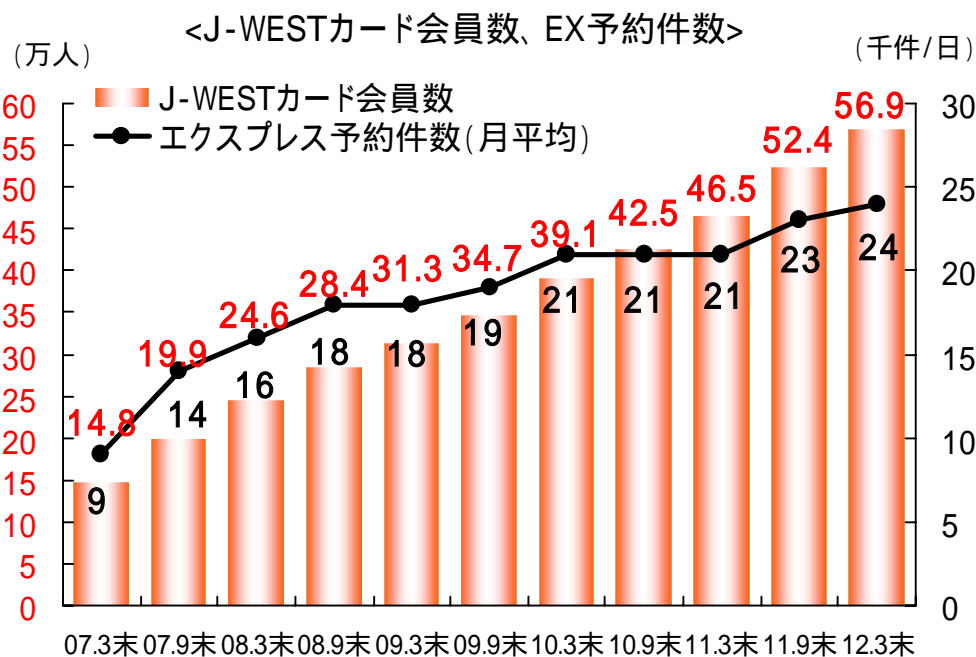


山陽新幹線のさらなるブラッシュアップ

< 対航空機マーケットシェア拡大 >

利便性向上とフリークエントユーザー囲い込み

- ・2012年3月ダイヤ改正でのフリークエンシーアップ
(九州直通+8往復、岡山～東京間「のぞみ」+1往復など)
- ・J-WESTカード会員の拡大
- ・「エクスプレス予約」「e5489」のご利用促進
- ・J-WESTプレミア・プログラムによるご利用頻度向上
- ・福山駅以西の携帯電話不感地対策
(福山～三原間:2012年6月予定)

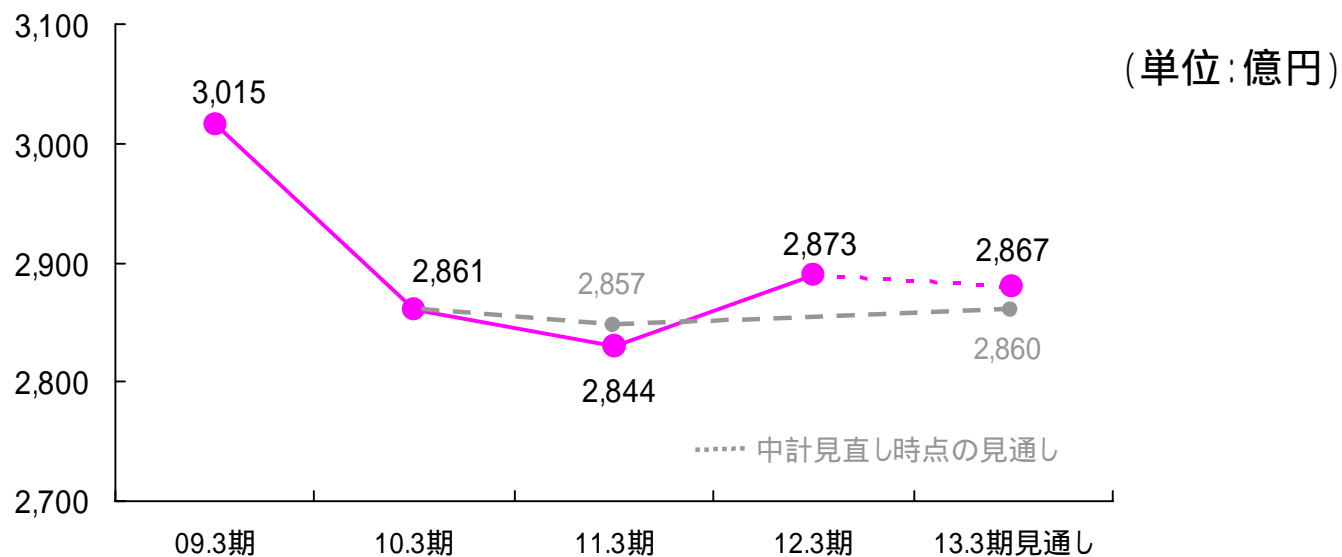


< 旅行需要拡大 >

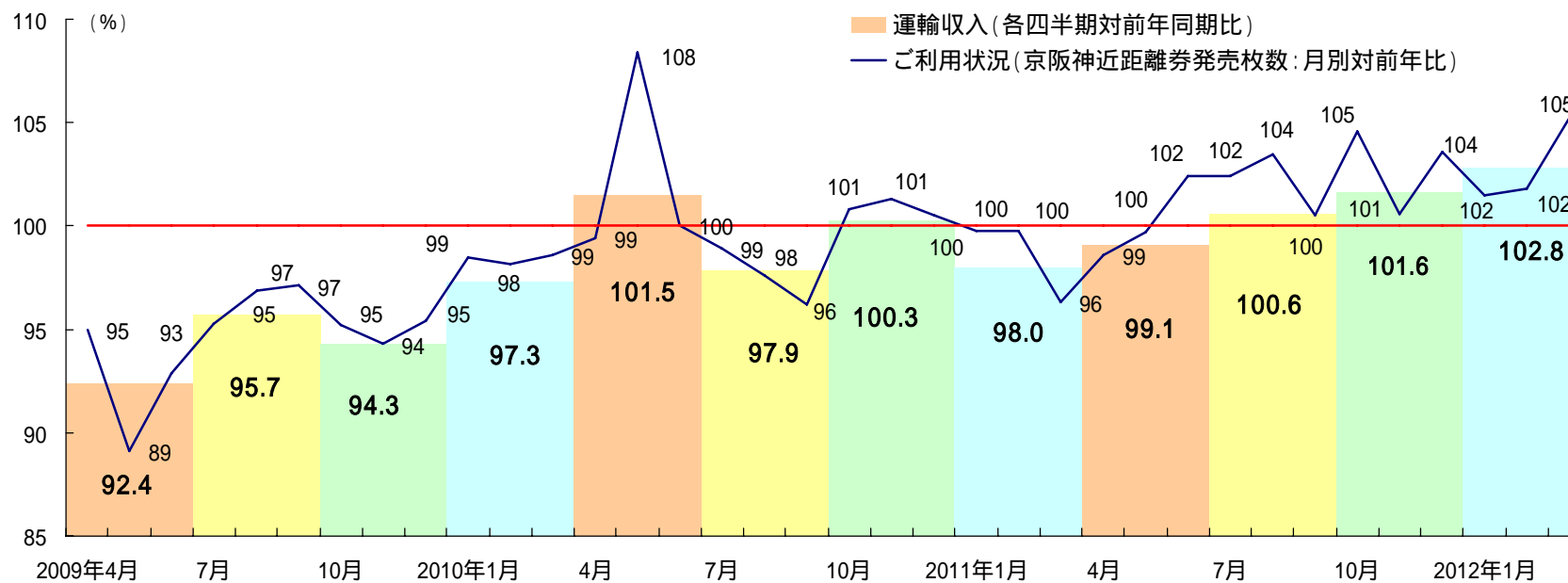
観光需要拡大

- ・観光キャンペーン実施
 - 「デスティネーションキャンペーン」
(当社管内では、2012年10～12月山陰、2013年7～9月広島、2014年9～12月和歌山で実施)
 - 「DISCOVER WEST」
大河ドラマ「平清盛」を生かした観光促進
- ・観光素材開発と2次アクセス整備
- ・「三都物語Web」による関西の観光情報や新幹線付き宿泊プラン紹介
- インバウンド需要取り込み
 - ・インバウンド商品整備と販売促進
 - 西日本地域へ誘引する新たな観光ルート開発
 - 外国人向けの便利でおトクな切符発売
「JR-WEST RAIL PASS (Kansai WIDE Area Pass)」,
「JR Sanyo-Shikoku-Kyusyu RAIL PASS」
 - グループ一体となった海外での宣伝展開
 - ・受け入れ態勢整備
 - グループ一体となった案内、販売体制構築
 - 他交通事業者と連携した環境整備

近畿圏の運輸収入の状況



近畿圏のご利用状況



近畿圏 (今後の取り組み)

拠点駅活性化の推進

- ・大阪駅: OSAKA STATION CITYへの更なる集客力強化
- ・京都駅: 京都駅ビル開業15周年記念イベントの開催
- ・三ノ宮駅: 三ノ宮駅コンコースリニューアル

関西のおでかけ情報サイト「マイ・フェイバリット関西」による需要喚起

「地域との共生」の視点に基づく線区価値向上

・駅および街の機能の充実

駅型レンタサイクル「駅リンクん」、駅型保育施設の整備拡大

子育て情報誌「とことことん」発刊

新駅設置 (六甲道～灘間: 2016年春、茨木～摂津富田間: 2018年春)

・より質の高い安全・安定輸送の提供

可動式ホーム柵設置 (大阪天満宮駅、2012年3月)

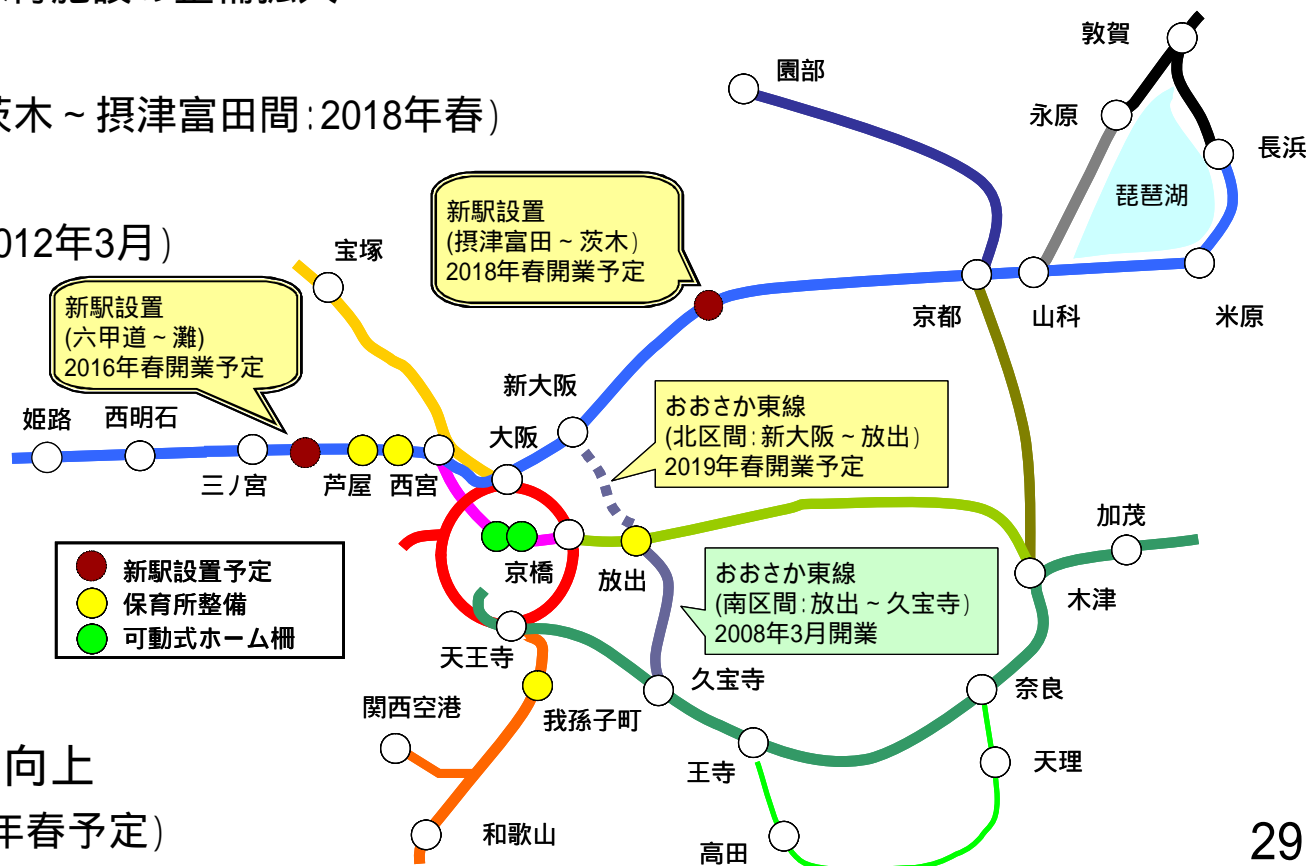
踏切の安全性向上



<とことことん>



<可動式ホーム柵>



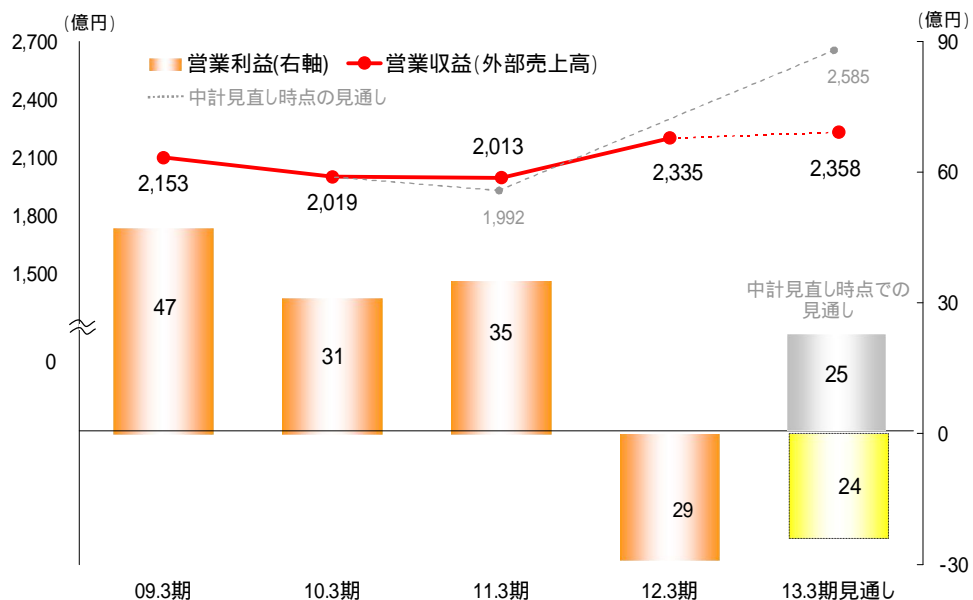
ICOCAのご利用促進を通じた利便性向上

- ・交通系ICカード全国相互利用開始 (2013年春予定)

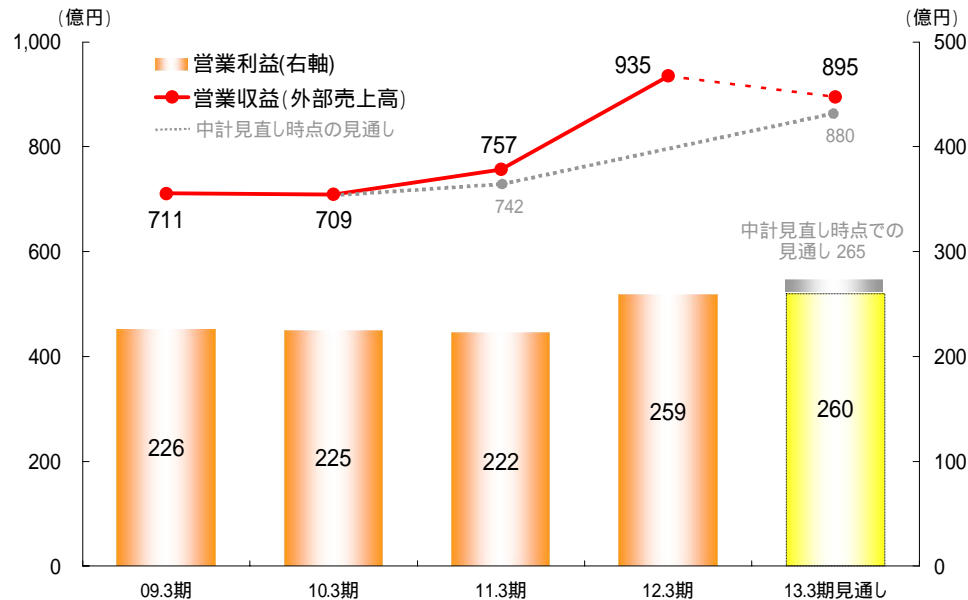


鉄道以外の事業の状況

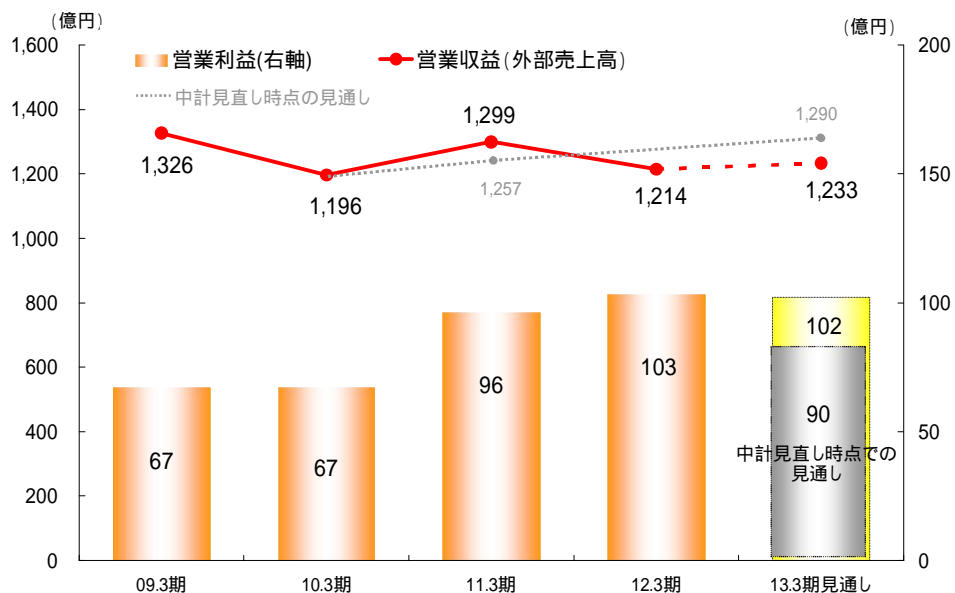
流通業



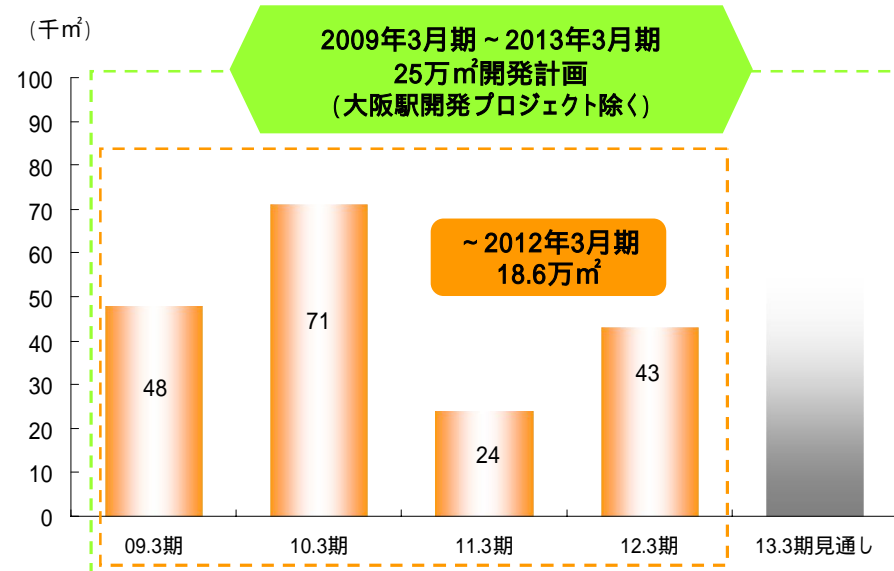
不動産業



その他事業



駅構内・周辺開発の計画と実績



【物販・飲食業】

駅改良に伴う構内店舗のリニューアル

- 「アントレ マルシェ新大阪中央」(2011年12月開業)
- 大阪駅「GARE」跡地開発(2012年開業予定)
- 天王寺駅コンコースリニューアル(2012年開業予定)
- 鳥取駅コンコースリニューアル(2012年開業予定)
- 三ノ宮駅コンコースリニューアル(2013年開業予定)



<アントレマルシェ新大阪中央>



<鳥取駅コンコース土産店舗>

ビジネスホテルチェーン「ヴィアイン」の展開

首都圏や山陽新幹線沿線を中心に展開拡大

- ・ヴィアイン心斎橋 (2011年4月開業:205室、地下鉄「心斎橋」駅徒歩2分)
- ・ヴィアイン新宿 (2012年2月開業:226室、地下鉄「新宿三丁目」駅徒歩3分)
- ・ヴィアイン東銀座 (2012年3月開業:297室、地下鉄「東銀座」駅徒歩3分)
- ・ヴィアイン岡山[仮称] (2012年開業予定:250室、JR「岡山」駅西口すぐ)



<ヴィアイン東銀座>



<ヴィアイン新宿>

【百貨店業】

JR大阪三越伊勢丹 ~ 商圈顧客をより重視した売上向上施策の展開 ~

- ・新ブランド導入等による品揃えの更なる拡充
- ・各種優待、イベント企画等による関西の地域特性を考慮したお買場づくり
- ・M!カードや食品ポイントカードのメリット訴求による更なる固定顧客の囲い込み
- ・販売員の更なるスキルアップ

JR京都伊勢丹 ~ 開業15周年に合わせた販売促進施策の展開 ~

- ・京都駅ビル開業15周年イベントと連動した各種販売促進施策の実施



<JR大阪三越伊勢丹>

【不動産販売・賃貸業】

賃貸: 京都弥生会館跡地開発[二条] (2011年12月開業)

「ピエラ奈良」グランドオープン (2012年3月開業)

京都駅ビル15周年イベント実施

販売: 分譲事業推進

(今後の分譲予定物件)

マンション名	所在地	引渡時期	総戸数
ジェイグラン吹田千里丘	大阪府吹田市	2012年7月(予定)	117
ジェイグラン・エル神戸兵庫	神戸市兵庫区	2013年2月(予定)	99
(仮称)神戸・灘プロジェクト	神戸市灘区	2013年2月(予定)	77
ジェイグラン岡本	神戸市東灘区	2013年3月(予定)	39
ジェイグラン阿倍野文の里	大阪市阿倍野区	2013年11月(予定)	113

【ショッピングセンター業】

ビエント神戸リニューアル「PLiCO神戸」(2012年3月開業)

岡山駅西口ビル開発(2012年開業予定)

延床面積約8,900㎡、地上14階、ホテル&商業施設

姫路駅新駅ビル開発(2013年開業予定)

延床面積約31,000㎡、地上6階・地下1階

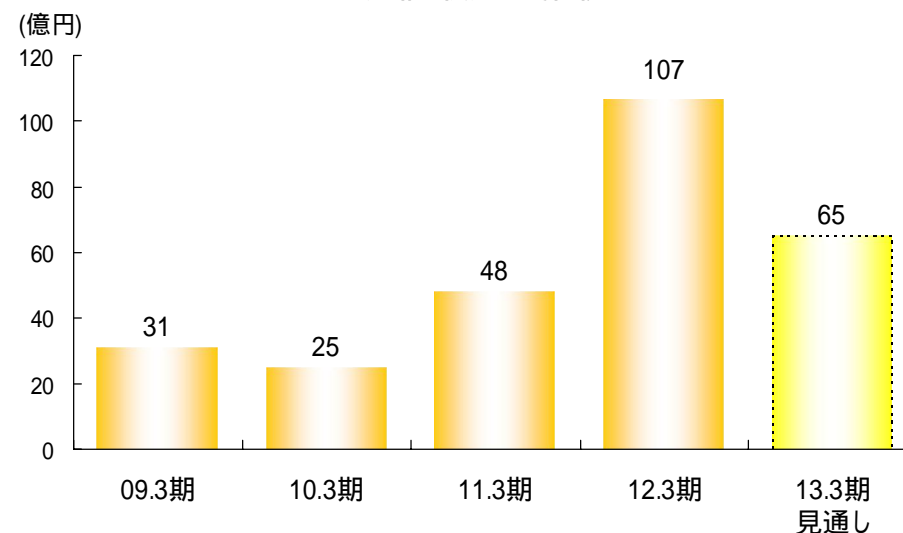


<姫路駅ビルイメージ>

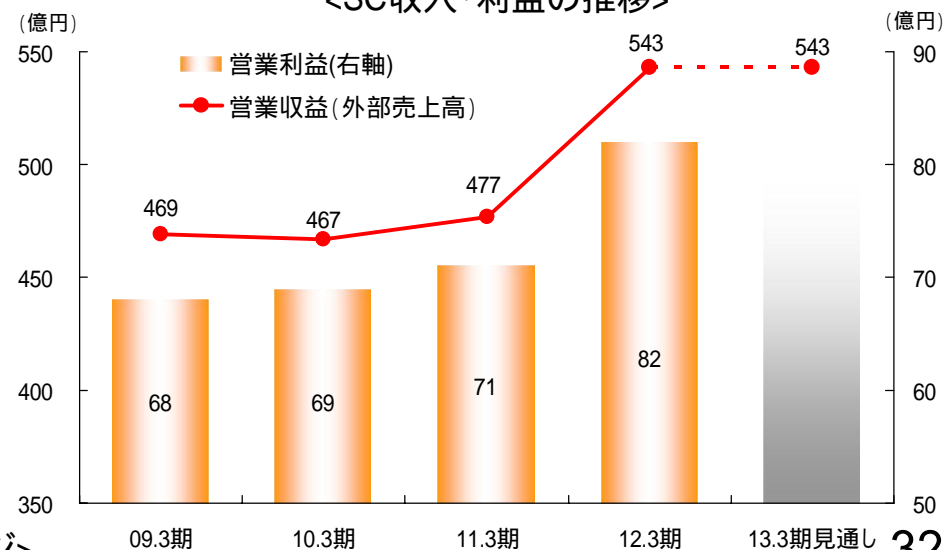


<岡山駅西口ビルイメージ>

<分譲収入の推移>



<SC収入・利益の推移>

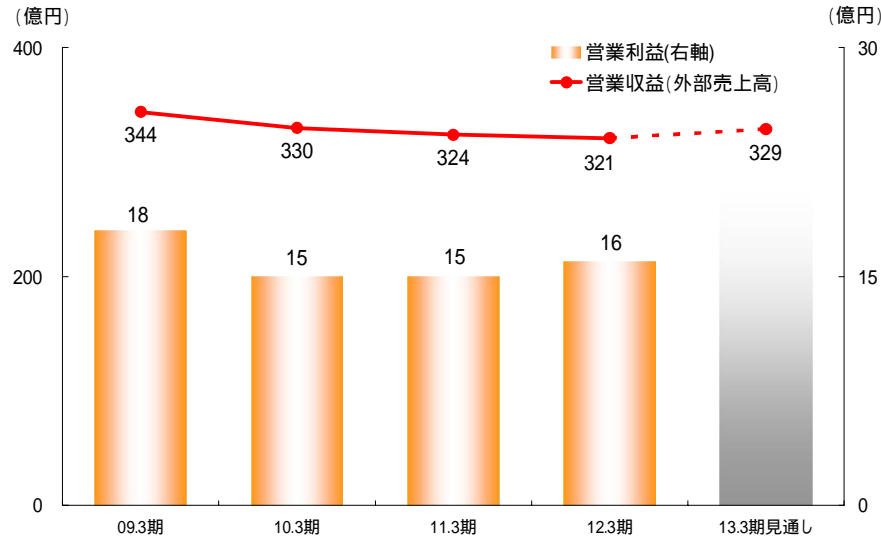


【ホテル業】

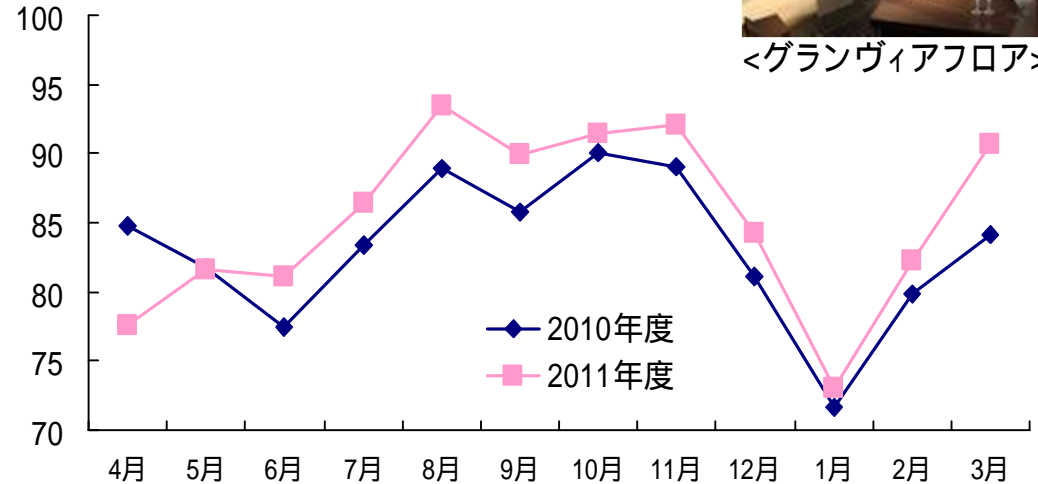
ホテルグランヴィア大阪27F「グランヴィアフロア」(最上級客室、2012年4月開業、68室)



<グランヴィアフロア>

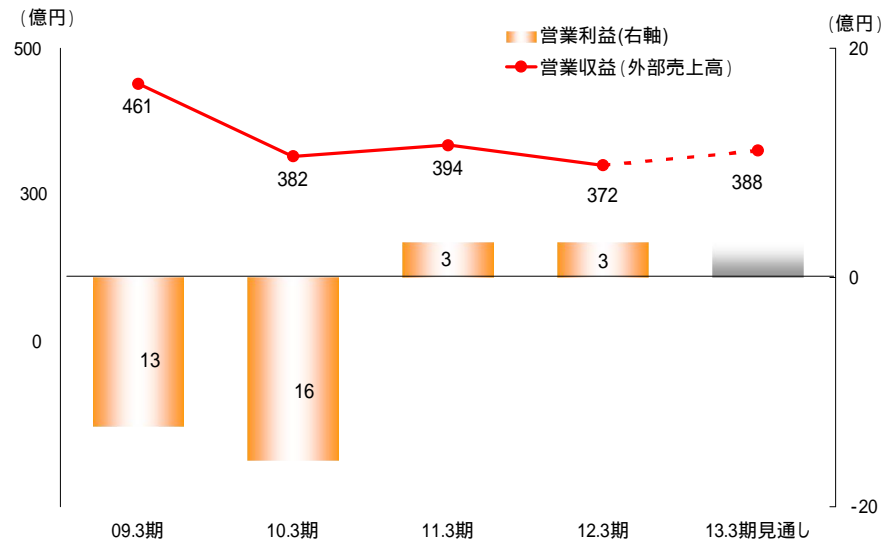


<ホテル各社合計の稼働率推移>

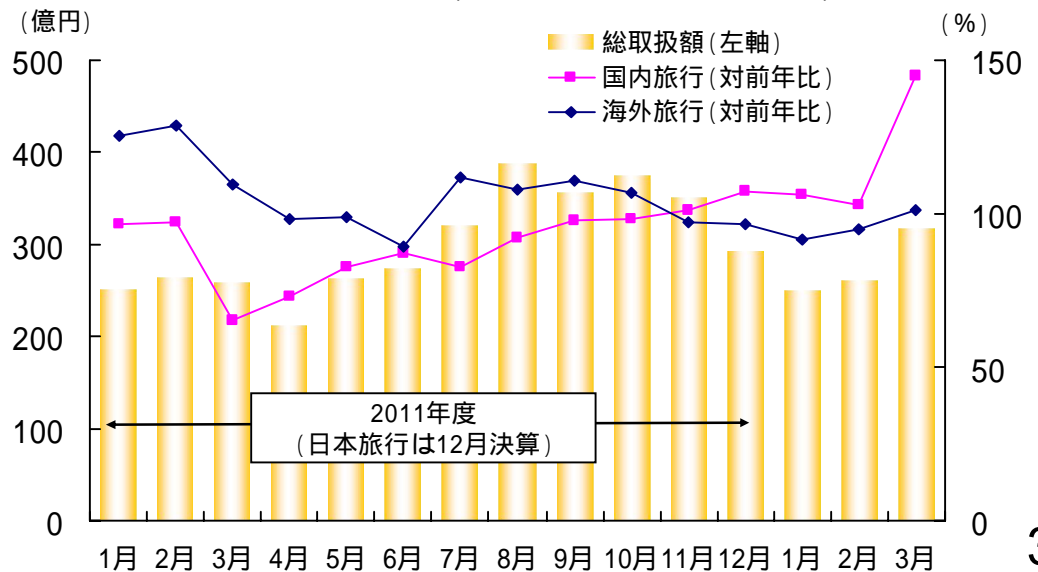


【旅行業(日本旅行)】

インターネット販売やBTM営業、インバウンド等強化
JR利用商品やヨーロッパ方面商品拡販



<取扱高推移(2011年4月～2012年3月)>



設備投資計画(連結)

【中計での5年間計画との比較】

(単位:億円)	中計	現時点での見通し
連結	9,800	9,800
単体	7,800	7,800
(安全投資)	4,300	4,600

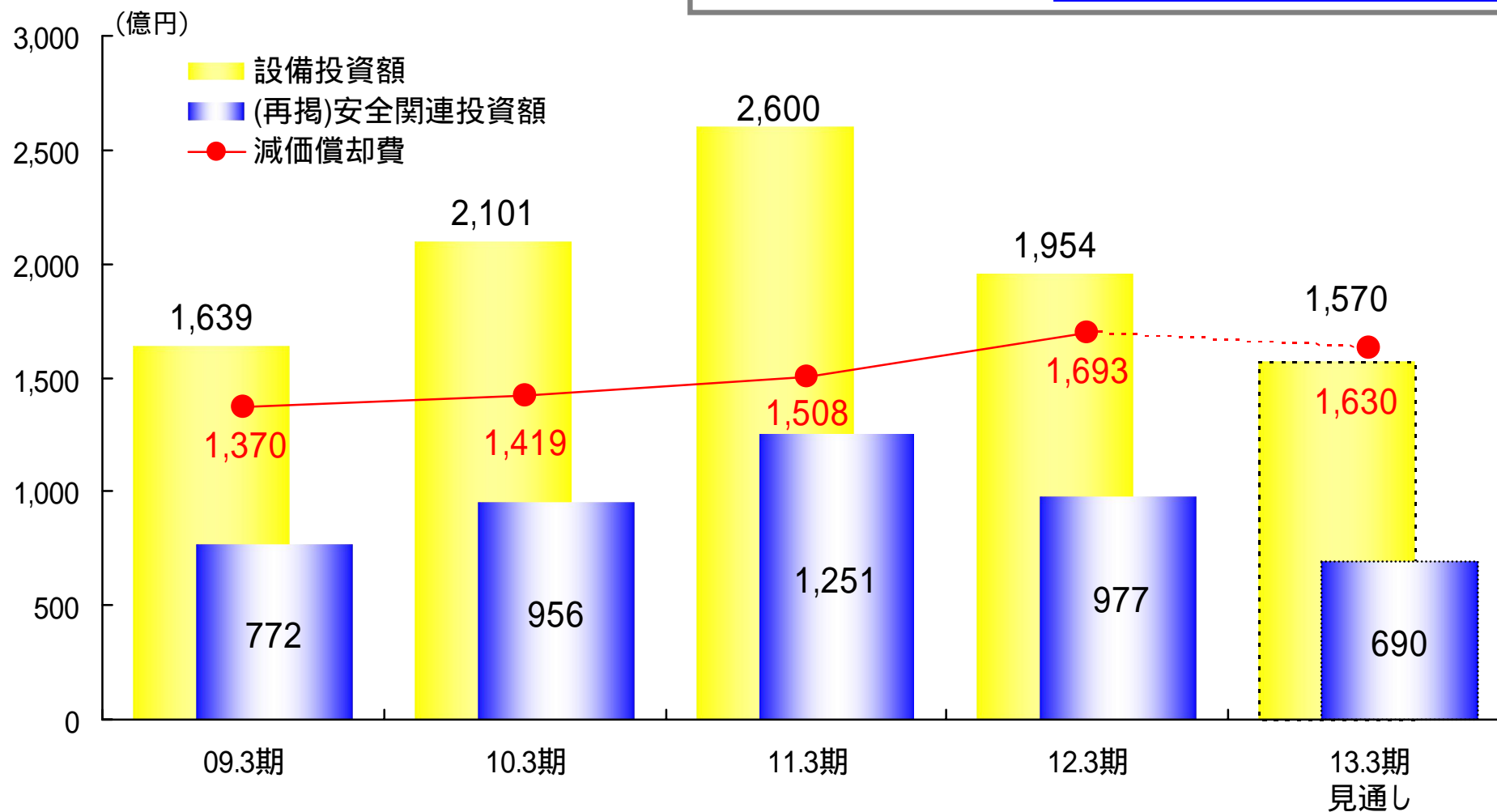
2013年3月期の主な設備投資案件

<成長投資その他>

自動改札システム更新
バリアフリー設備
大阪駅開発プロジェクト

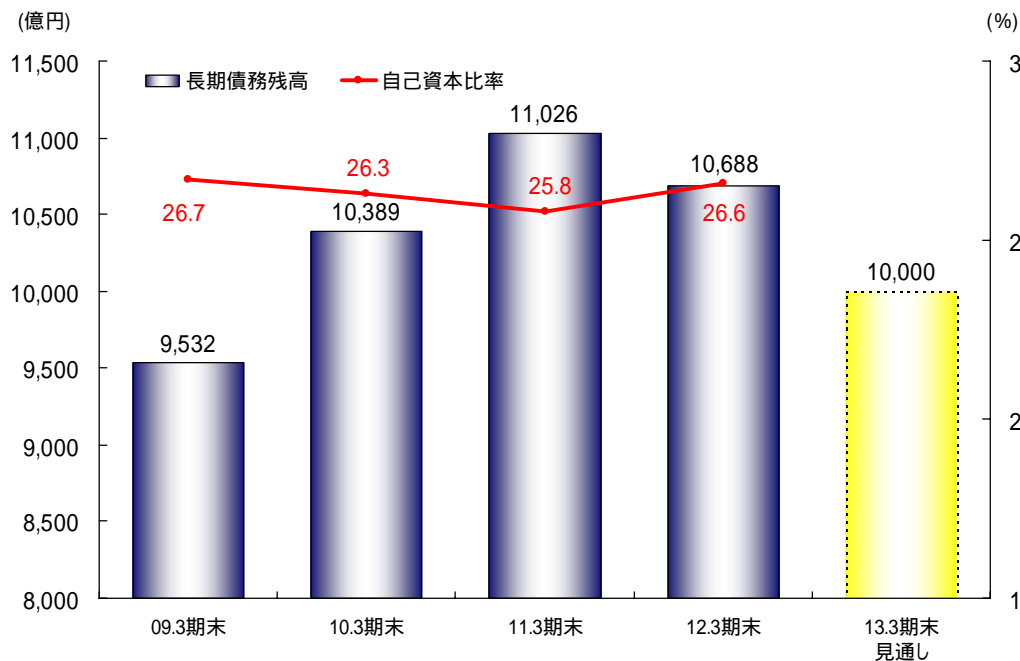
<安全関連投資>

ATS - P整備等保安防災対策
運転状況記録装置
人身事故対策、踏切事故防止対策
新幹線逸脱防止対策
特急「くろしお」への新型車両投入

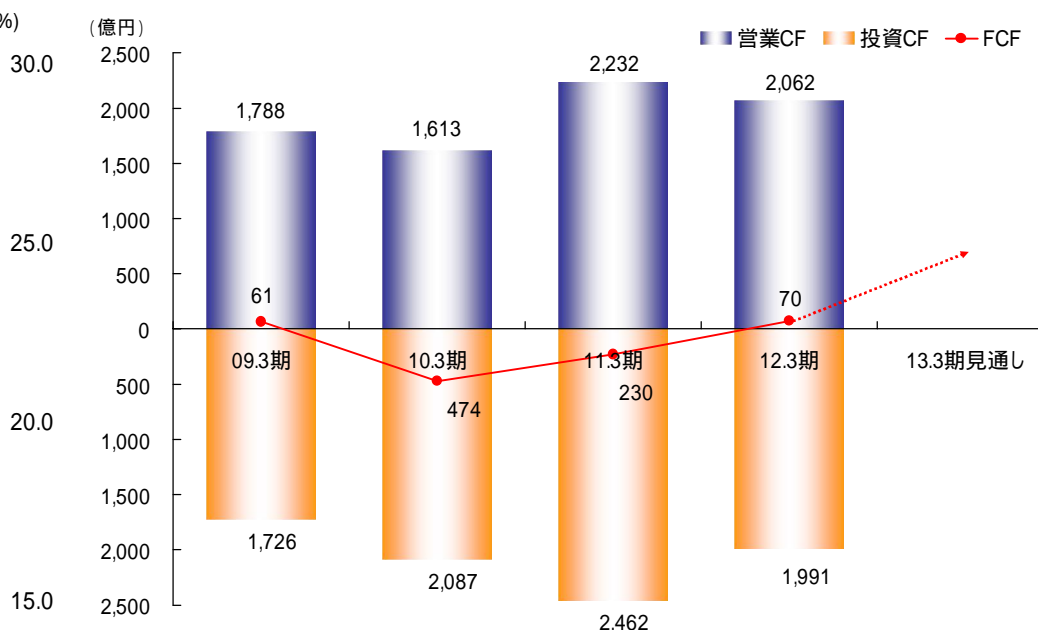


財務・キャッシュフローの状況と株主還元

長期債務残高・自己資本比率の推移(連結)



キャッシュフローの見通し(連結)



財務状況

- ・自己資本比率は鉄道業界では高水準と認識
- ・2大プロジェクト関連の設備投資が一段落することに伴い、フリーキャッシュフローには余裕が出る見通し

株主還元方針

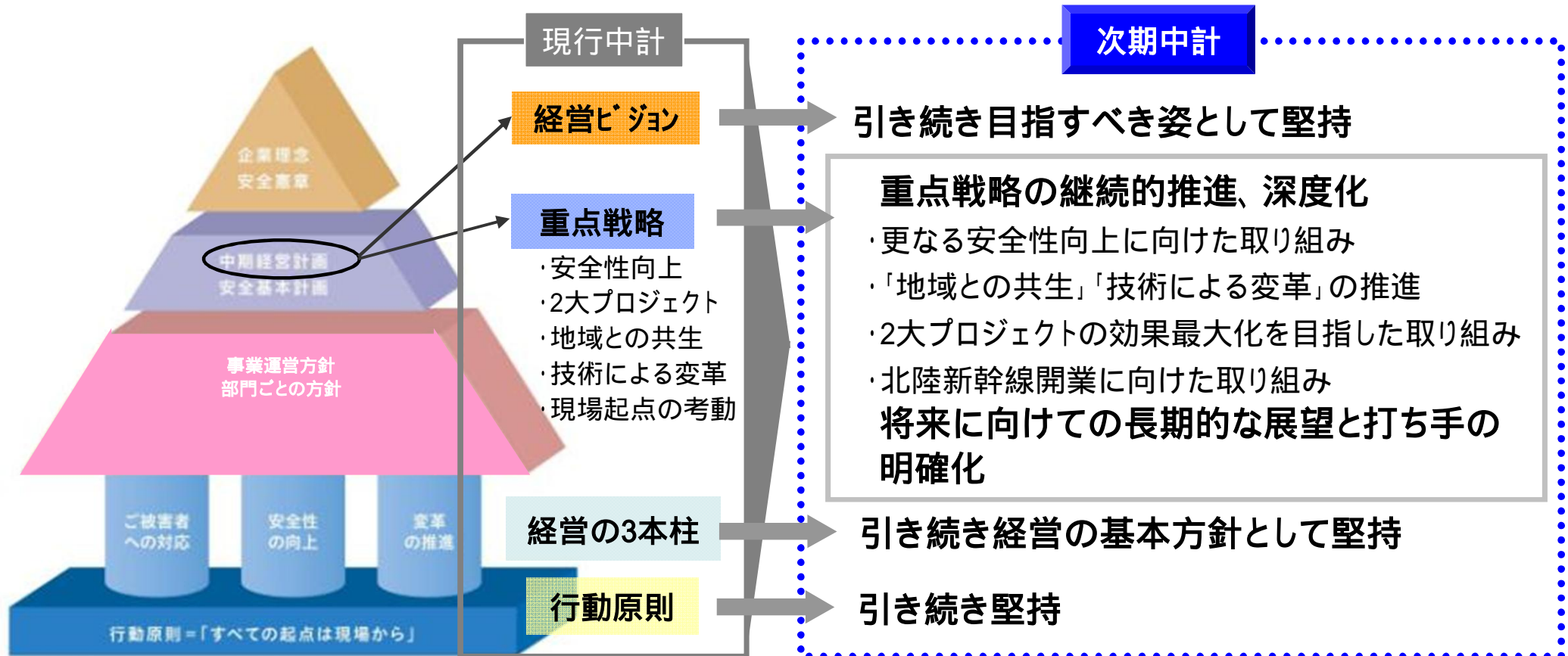
「プロジェクトの成果が実現することを前提に、今年度において連結DOE3%を目指す」

不透明な経営環境(夏の電力不足問題、原油高、円高、欧州リスクなど)

今年度の配当予想は年間100円/株

経営ビジョン

私たちは、福知山線列車事故を決して忘れず、企業理念の実現に向けて、安心と信頼をベースとした持続的発展の実現を図りつつ、事業活動を通じて西日本地域の活性化に貢献し、安全マネジメントにおいて卓越し、お客様・地域・社会から信頼される企業グループを目指します。



北陸新幹線の整備について

長野～金沢間 (約230Km)

完成予定: 2014年度末

建設主体: 独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構

(当社は受益を限度として機構に使用料を支払い営業運転)

当社営業エリア: 上越(仮称)～金沢間 (約170Km)

所要時間	JR		航空機 ³
	現在 ¹	開業後 ²	
金沢～東京	約3時間50分	約2時間40分	約2時間50分
富山～東京	約3時間10分	約2時間20分	約2時間30分

1 「現在」は、上越新幹線+ 特急「はくたか」利用

2 「開業後」は平均速度190km/hとした場合

3 アクセス、イグレスの所要時間も含む

金沢～敦賀間(約130Km)

<政府・与党確認事項(2011年12月26日)>

「着工5条件」を満たした上で、敦賀以西の整備のあり方について対応が示されていることを確認した際には、新たな区間の認可・着工を行う。

敦賀開業時に敦賀での乗り換え利便性を向上させるため、「フリーゲージトレイン」導入について国から提案があり、当社も検討する旨を表明

長野～金沢間の開業から概ね10年強後に開業予定(2026年3月期頃)



将来の見通しに関する注意事項

- 本スライドは、JR西日本の事業、産業及び世界の資本市場についてのJR西日本の現在の予定、推定、見込み又は予想に基づいた将来の展望についても言及しています。
- これらの将来の展望に関する表明は、さまざまなリスクや不確かさがつきまとっています。通常、このような将来への展望に関する表明は、「かもしれない」、「でしょう」、「予定する」、「予想する」、「見積もる」、「計画する」、又はこれらに類似する将来のことを表す表現で表わされています。これらの表明は、将来への予定について審議し、方策を確認し、運営実績やJR西日本の財務状況についての予想を含み、又はその他の将来の展望について述べています。
- 既に知られた若しくはいまだ知られていないリスク、不確かさその他の要因が、かかる将来の展望に対する表明に含まれる事柄とも大いに異なる現実の結果を引き起こさないとも限りません。JR西日本は、この将来の展望に対する表明に示された予想が結果的に正しいと約束することはできません。JR西日本の実際の結果は、これら展望と著しく異なるか、さらに悪いこともありえます。
- 実際の結果を予想と大いに異なるものとしうる重要なリスク及び要因には、以下の項目が含まれますが、それに限られるわけではありません。
 - 財産若しくは人身の損害に関する費用、責任、収入減、若しくは悪い評判
 - 経済の悪化、デフレ及び人口の減少
 - 日本の法律、規則及び政府の方針の不利益となる変更
 - 旅客鉄道会社及び航空会社等の競合企業が採用するサービスの改善、価格の引下げ及びその他の戦略
 - 地震及びその他の自然災害のリスク、及び情報通信システムの不具合による、鉄道その他業務運営の阻害
- 本スライドに掲げられたすべての将来の展望に関する表明は、2012年5月2日現在においてJR西日本に利用可能な情報に基づいて、2012年5月2日現在においてなされたものであり、JR西日本は、将来の出来事や状況を反映して、将来の展望に関するいかなる表明の記載をも更新し、変更するものではありません。
- なお、2005年4月25日に発生させた福知山線列車事故に関する今後の補償費用等については、現時点で金額等を合理的に見積もることが困難なことから、本スライドの見通しには含まれておりません。